



## 「原体験」のすすめ

今年は梅雨明けがとても早かったおかげで、園でのプール遊びは存分に満喫することができました。当初水に抵抗があった子ども徐々に慣れていき、最後には友達と水をかけ合ってはしゃぐようになりました。



水の心地よさを実感できるのは夏ならではの体験です。夏はアウトドアに最も適した季節。保護者の皆様にも、子どもの頃の夏の思い出がたくさんあるはずです。

- ☀ 海で泳いでいる時、何度も海水を飲んでしまい、そのしょっぱさが忘れられない。
- ☀ 日焼けした夜、お風呂に入る時、肩がひりひり痛くてなかなか湯に浸かれなかった。
- ☀ 縁側にごさを敷き、風鈴の音を聞きながら昼寝をしたことが懐かしい。

これらの感覚は、不思議なことに大人になっても覚えているものです。幼少期に五感、とりわけ触覚・嗅覚・味覚で体験したことは、永遠に忘れることがないそうです。これが「原体験」です。

兵庫教育大学、山田卓三氏は、身の回りの自然とのかかわりを通して、触覚・嗅覚・味覚を始めとする五感を用いて知覚する体験を「原体験」と定義し、その類型と具体的事例を以下のように挙げています。（「ふるさとを感じるあそび事典」（1990年 農文協出版））

火体験	・熱さを感じる ・焦げる匂いをかぐ ・けむたさ ・火を起こす、保つ、消す
石体験	・石を投げる ・石を積む ・きれいな石を探す ・石で書く ・石器を作る ・火打ち石
土体験	・素足で土に触れる ・土の温もりと冷たさ ・土を掘る ・土をこねる ・土器づくり
水体験	・雨に濡れる ・自然水を飲む ・水かけ遊び ・浮かべる ・海で泳ぐ ・川を渡る
木体験	・木に触れる ・木の匂い ・木の葉、実を集める ・棒を使う ・木、竹、実のおもちゃ
草体験	・草むら歩き ・抜く ・ちぎる ・匂いをかぐ ・食べる ・草で遊ぶ
動物体験	・捕まえる ・触る ・匂いをかぐ ・飼う ・見る ・声を聞く ・食べる
ゼロ体験	・暗闇を歩く ・日の出を見る ・林を歩く ・飢え ・渴き

実は、これらの「原体験」は今後の学校教育に大きく結びついてきます。例えば、自分で考える、自分の判断で選び決める、挑戦してみる、やり抜く、仲間と協働する、我慢する、困難に立ち向かう、既成概念にとらわれず柔軟な発想を展開するといった、いわゆる「非認知能力」が身に付き、読み・書き・計算を始めとした認知能力の土台を形成します。また、スピード感を伴う応用力、適応力、創造力が求められるこれからの社会を生きていく上で欠かせない資質・能力が備わります。

山田氏をリーダーとする兵庫教育大研究グループによると、幼少の頃「原体験」をした子どもは、自分が親になった時もわが子に同様の体験をさせる確率が高いと報告しています。園では、豊かな自然環境を生かして、できるだけ原体験を保障していますが、集団で行うために安全上させてやれないこともあるのが現状です。

とはいえ、原体験に多少のけがは付き物です。「けがは子どもの勲章」とは言いますが、園ではけがをさせないよう細心の注意を払って指導しています。ただ、けがを恐れて何もさせないのでは、貴重な経験を奪ってしまうことになります。また、どこまでが安全で、どこからが危険か自ら本能的に見極める安全管理能力、危険予知能力が身に付きません。ご家庭では、自然の中でのお子様の遊びを見守り、大きなけがだけは気を付けて、様々なことに挑戦させていただきたいと思います。

ゲーム機やYouTube もいいですが、所詮バーチャルの世界。これだけで満足してはいけません。

今年の夏は、新型コロナとは全く無縁の大自然に子どもを放り込み、親子の五感をフルスペック仕様にして夏に浸ってみられませんか。～原色の 夏に染まれや 二幼の子～（園長 寺本 明生）